第６回ワークショップの成果

Ｂ班

柔道場 剣道場 空手道場

- 柔道場 ２面 398 ㎡以上
- 柔道場 398 ㎡ 226 畳
- 柔道場 正式試合場２面 50×2面外周 1.5
- 公式試合(公認)が出来るような施設グレードを
- 剣道場　正式試合場２面分
- 空手道場として 150 ㎡位は欲しい
- 鉄筋又はｺﾝｸﾘｰﾄ造り
- 屋根裏をつくり朝日、夕日が直接当たらないように
- 通気性は良くする、現場の声を聞く
- 現水島武道館、通気性悪く西日が当たって６人が熱中症に
- 武道館、通気が良い(夏場) 夏場の暑さ 西日窓×
- 天井を高くし風通しが良いように窓を大きく
- 通気を高め冷房機器に頼らない暑さ対策を備えた施設
- 窓を開閉しやすい高さで引き戸式とし通気性を確保
- 発声、音、通気性を考慮し独立した建物
- 練習中大声を発声する為他に迷惑をかけない物に
- 和風的玄関を作りゆったりと
- 玄関上がりのたまりを設ける
- 内壁仕上げは天然木材が良い
- 床の弾力性を確保
- 床材は天然素材とし足の裏にやさしい滑り止めを使用
- 床材は天然素材とし足の裏にやさしい滑り止めを使用
- 簡素であっても和風な造り、雰囲気を醸し出す
- 日本古来の伝統文化である武道を修練するのに相応しい武道館
- 武道を修練するのに相応しい和風なつくり
- 現施設の記念となるようなものを新施設に反映し、先輩→後輩、親→子の伝統のつなぎを作る

付属施設

- ｼｬﾜｰ室、更衣室、男女別のﾄｲﾚ
- 更衣室、ｼｬﾜｰを付ける
- ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽを確保
- 熱中症対策として休養ｽﾍﾟｰｽ 冷暖房があり休憩室

体育館

- 外から見える開かれた(体育館)施設に
- 体育館は現在の広さ以上で中央が開放的
- 体育館は基本は上靴で使用する
- 観覧席のある体育館
- 体育室(小規模)を作り様々なｽﾎﾟｰﾂに対応(ダンスなど)
- 体育館で大きな大会、講習会で開催できるように隣接して配置

施設全体

- 施設全体、ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ基本
- 全体、防音設備を考える
- 空を大きく緑を多く水辺を広く
- 憩と気品のあるプランに
- 武道館周辺に芝生のある緑地を設ける
- 緑地との共生ある配置
- 施設の基本、自然に配慮して環境を考える
- 駐車場 150 台、屋根付き自転車 50 台
- 駐車場 50 台の広さがほしい
- ｲﾝﾀｰﾈｯﾄで予約可能に
- 体育施設と教養施設とは音などの関係から別棟又は相当な対策を講ずる
- 各施設にトイレ(男女用)の設置
- 各施設に温水シャワールーム

- 公式試合が各２面とれる柔道場（398 平米）及び剣道場（450 ㎡以上）、空手道場(150 ㎡)、体育館(広めで)とする。
- 夏場の暑さに対応できるように、①通気性を良くする、②西日が入らない窓の配置、③屋根裏をつくって断熱を。
- 熱中症対策等として冷暖房が完備した休憩所を付属する。
- 天然素材(木材)を使い、日本古来の伝統文化である武道を修練するのにふさわしい和風な造り。
- 音が発生するため防音(独立 or 防音対策)に配慮(体育施設全般)
- 更衣室には温水シャワーをつけ、体育館と武道関係とは別とする。
- 外から見える開かれた体育館とし、武道館と相互利用できる配置とする。
- トレーニングジム・スタジオなどの付属施設を近くに配置する。
- 各施設毎にトイレを付属する。
- 各フロア、各室にアクセスできるＥＶをつける、バリアフリー(全体的に)とする。
- 全館で 150 台程度の駐車場を確保し、駐輪場が 50 台程度(屋根付き)
- 自然に配慮した緑地との共生を図り、憩いと気品のあるプランとする。
- インターネットで予約できるようにする。